



## 穴戸ゼミのテーマ = 少子高齢化とまちづくり

少子高齢化時代の社会的問題、特に弱い立場にある人々への「社会的排除」の問題の認識を深め、社会的包摂の取り組みを実践すること。子ども、高齢者、障がい者、女性に関わる社会的問題について、6つのプロジェクトを実施。

子ども

- ①児童養護施設に生活する小学生への学習支援
- ②瓢箪山地域に生活する小学生へのサマースクール

高齢者

- ③稲葉地域に生活する高齢者の居場所づくり
- ④大阪ガスと協働して実施する世代間交流

障がい者

- ⑤「障がい」に対する市民の理解を深める啓発サロン

女性

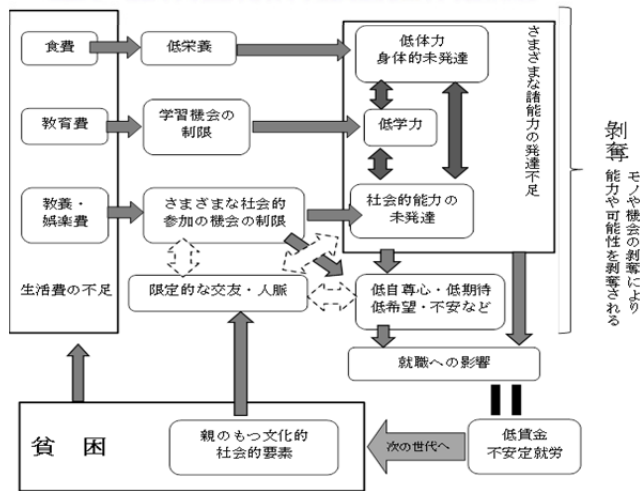
- ⑥女性の就労を後押しするフレスポ東大阪でのマルシェ

### 福祉多元主義の考え方にそって協力機関を多様化

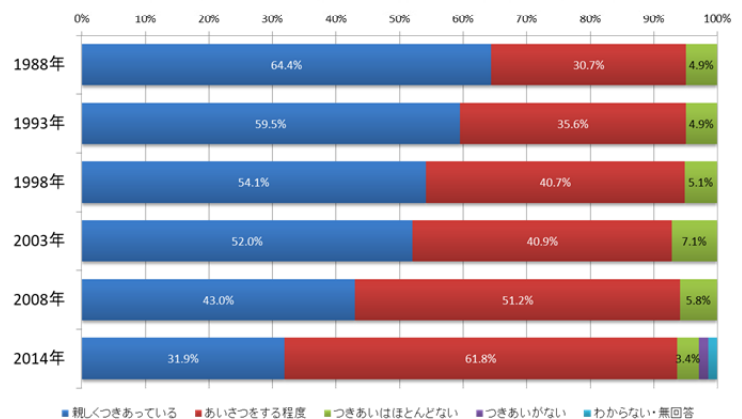
	支援の原理 (利点)	現状と課題 (弱み)		
家族・地縁組織	愛情 個別性	家族の流動化	地域社会の希薄化	女性のケア役割の低下
国家・行政	公平性	画一的	非効率 財政危機	スピードの遅さ
市場	営利性 効率性	利益が上がらなければ参入困難	公的サービスとの競争	
NPO/ボランティア組織	理念性 即応性	財源の弱さ = 持続可能性の弱さ	専門性の未発達	参加者の意向が反映

## 社会的問題

### 子どもの貧困の悪循環の経路

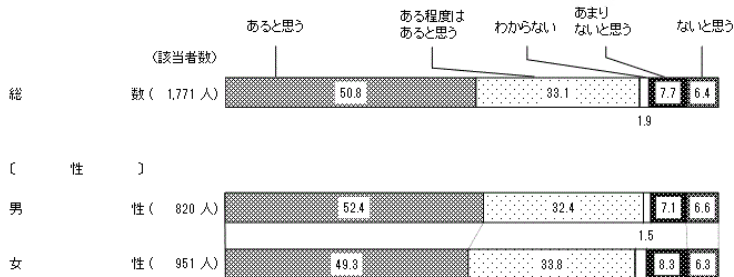


### 高齢者の地域づきあいの低下

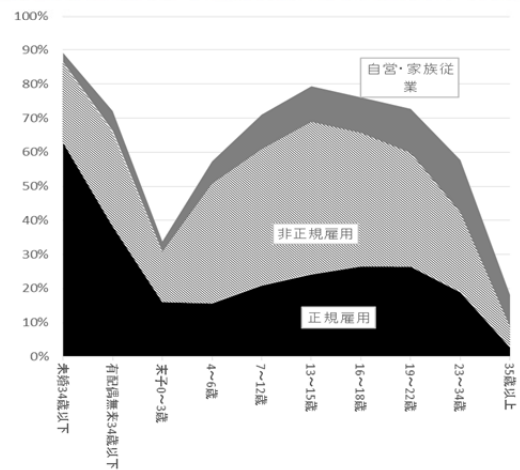


### 障がい者に対する差別意識の残存

(内閣府, 2017, 「障がい者に関する世論調査」)



### 労働市場から排除・周辺化させられている女性



# 社会的包摂に関わる宍戸ゼミの取組み



児童養護施設の小学生をリアクトに招いたキャンパスツアー



大阪ガスとコラボした三世代間の料理教室



延べ 200 名が参加した瓢箪山でのサマースクール



稲葉地区の高齢者の居場所づくりでモノづくりを通じた交流企画



女性の社会参加の機会を創出するマザープラスの「カフェ・ド・マン」の活性化



視覚障害をテーマとした障がい者と一般市民の啓発サロン

## 達成点と今後の課題

	達成点	課題および宍戸先生からの助言
児童養護施設班	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導だけでなく、小学生を外部に連れ出し、<b>将来の目標を考えるような新しい取組み</b>ができたこと</li> <li><b>2カ月に1度の継続的な学習支援</b>を開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2カ月に1度の施設訪問による算数の<b>学習指導の方法をさらに検討</b>すること</li> <li>関わっている施設内の子どもだけへの支援（＝ボランティア）の観点だけでなく、施設に暮らす子どもの<b>問題を発信する観点</b>や他の施設への<b>波及効果</b>を検討すること</li> </ul>
サマースクール班	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度以上の<b>多くの小学生が参加</b>したこと</li> <li>アンケートを実施して子どもたちの意向が聴けたこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生ボランティアの巻き込みに失敗しており、<b>地域内の自立的な取組みになる工夫</b>をすること</li> <li>子どもの居場所づくりを他地域に拡大する際の<b>「仕組みづくり」の観点</b>を強化する必要性</li> </ul>
高齢者班	<ul style="list-style-type: none"> <li>年1回の企画ではなく、2カ月に1回の<b>継続的な関わり方ができた</b>こと</li> <li>参加者を増やすだけでなく、参加者同士の<b>関係づくりに貢献</b>できたこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>孤立しがちな<b>高齢男性の参加がまだ増えていない</b>こと</li> <li>「居場所づくり」を行っている自治会役員の負担が軽減できるような<b>仕組み</b>をより深く考察すること</li> </ul>
世代間交流班	<ul style="list-style-type: none"> <li>東大阪市外のハグミュージアムで<b>三世代の交流</b>を目的とした企画を実践できたこと</li> <li>参加者から<b>高評価</b>をいただいたこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の参加が低調で、三世代というよりも親子の企画になってしまったこと</li> <li>地域内の施設利用を検討し、広報活動に力を入れ、<b>より多くの市民に認知してもらえるような企画</b>を目指すこと</li> </ul>
障がい者班	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚障害の生活上の困難について、<b>一般市民の方の理解を深める</b>企画を立てられたこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サロンの企画内容の詰めが甘いので、<b>ファシリテート役の訓練</b>を事前に行うこと</li> <li>参加した一般市民だけでなく、参加しない一般市民に対しても、<b>インターネットなどで情報発信</b>すること</li> </ul>
フレスポ班	<ul style="list-style-type: none"> <li>親子が楽しめるモノづくりの<b>アイデアを具体化</b>して、多くの参加者に楽しんでもらったこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は天候に恵まれず、何度も延期になった点が残念</li> <li>店舗の運営だけでなく、<b>催し物全体の認知度の向上</b>や<b>来客数の増加</b>に貢献できるような<b>関わり方</b>を検討すること</li> </ul>